



短い夏を歌う 高山の鳥たち

白山に登ると、いろいろな鳥に出会うことができます。登っている途中に耳を澄ますと、鳥たちの美しい鳴き声が聞こえてきます。ブナ林、オオシラビソ林、ハイマツ林などそれぞれの環境に合わせて、鳥たちはたくましく生きています。ここでは高山帯の厳しい環境の中で暮らし、子育てをしている鳥たちを紹介します。



ハイマツや岩の間を飛び回る小鳥たち

「美声」イワヒバリ



高山で見かける鳥の代表がイワヒバリです。スズメより一回り大きく、ずんぐりとした茶色の体、灰色の頭で、キュルリ、キュルリと美しい声で鳴きます。6～8月ごろ標高2,000m以上の高山帯の岩のすきまに枯れ草、茎などで巣をつくり、青色の卵を3、4個産みます。冬は標高1,000mくらいの深い谷の中で、厳しい冬を過ごします。人間をあまり恐れないので、白山に登るとよく出会うことができます。

「高山の代表格」カヤクグリ



イワヒバリとともに、高山で見かける鳥の代表がカヤクグリです。スズメくらいの大きさで、胸が赤みがかっています。標高2,000m以上のハイマツの林や岩場に生息しています。冬には丘陵や低山、沢にある藪地などの標高の低い場所へ移動します。冬にカヤ（ススキなどの総称）が多く生える藪に潜むように生活することから、カヤクグリと名付けられたそうです。

「目立ちたがり屋？」ホシガラス



ホシガラスは白山の亜高山、高山帯でよく見かける鳥です。カラスの仲間ですが、町で見かけるカラスより小さく、体長は30cmくらいです。全身黒っぽい茶色で体中に白い斑点があります。この斑点が夜空に光る星のように見え、「ホシガラス」の名が付いたそうです。ハイマツやオオシラビソの種が好物で、その木の枝の上でギャーギャーとしわがれた声で鳴くのですぐ分かります。

高山帯の絶滅危惧種

「白山の空の王者」イヌワシ



白山を象徴する鳥が日本でも最大級の大きさを誇るイヌワシです。羽を広げると、何と2mを超える大きさです。石川県の県鳥にもなっています。白山のさらに上の空を力強く雄大に飛びます。天敵もなく生態系の頂点にいるイヌワシですが、開発による生息地の破壊などが原因で数が少なくなり、絶滅が心配されています。運が良ければ、白山の麓や登山中などにゆっくりと空を舞うイヌワシの姿を見かけることができます。

※ 写真:山根 勝氏 提供

「再発見！」ライチョウ



ライチョウは白山では絶滅したと言われていましたが、2009年に60年ぶりに雌1羽の生息が確認されました。数年間は確認されていましたが、現在では生息は確認されていません。古くは「らいの鳥」と呼ばれており、江戸時代には火事や雷の災難よけの信仰の対象とされていました。

ハイマツ林を歩き回るライチョウ。もし見かけたら静かに見守ってあげてください。

環境省中部地方環境事務所・環白山保護利用管理協会

